

被施魔法（魔法をかけられて）

金 泉碧

臥龍街は不思議な街

整然と区切られた都会の大通りの隅っこで

細い道筋が斜めに入り組む その先

私はいつのまにか都会から

異界の空間へ迷い込む

通りの片隅の祠のような小さな寺から

流れる線香の匂いと

長屋の路地から漂う

料理の香辛料のかおりが入り交じって

たちまち私は魔法をかけられて

耳と目はそのままに口を塞がれた

通りの小さな店々には

金色の紙で作られた花々が

あふれんばかりに並べられ、吊るされ

極楽の世界をみせている

美しく眩い世界

人間の想像の極致

極楽の再現

花々を飾る墓の下には

熱帯の湿気で蒸され

腐り果てた死の世界

目を覆う状況を 虚偽の世界で被い
人の目の前には美化してみせる
偽りの世界で

人は騙されることに納得していく

何も喋ってはならぬ

何も見た事にしてはならぬと

地の底から声がして

私はただ「はい」と

何者かの問いに答えている

臥龍街のざわめきと生活の匂いの中で

今もきつと

金色の花は店いっぱいに咲いてはいるが

また誰か通る人を捕まえて

異界へと誘い込むことだろう